

衛星 WG

第 10 回 情報共有発表会

衛星 WG では 2015 年 12 月 5 日に
第 10 回情報共有発表会を実施した。

本報告書では、イベント概要、及び実施結果を報告する。

アジェンダ

1. 背景・目的
2. 実施概要
3. 実施内容
4. アンケート結果
5. 総括

作成日

2015.12.15

作成者

日大 大日向 健人 + 衛星 WG メンバー

実施日時

2015.12.05
11:00 - 15:10

実施場所

首都大学東京
日野キャンパス

参加者数

73 名

参加団体数

21 団体

○ 本報告書、および「衛星 WG 情報共有の取組み」に関するお問い合わせは下記連絡先までお願い致します。

MAIL: [unison_sat_happy\[at!\]googlegroups.com](mailto:unison_sat_happy[at!]googlegroups.com)

※ [at!]を@に変えてください。



SATELLITE WORKING GROUP
衛星情報共有のための取組み

※ 青緑色の文字は、クリックすると関連ページに飛びます。

1. 背景・目的

衛星 WG では「情報共有の取組み」の一環として、過去 9 回にわたり発表会形式のイベントを実施してきた。また、発表会を実施すると同時に、発表会時に利用した資料などを衛星 WG が運営する「[情報共有 wiki](#)」*1 にアップロードすることで、取組み参加者の間で情報の共有・蓄積を図ってきた。

下記の目的を達成すべく、より多くの有益な情報を参加団体間で共有する為、発表会形式のイベントを実施する。

○ 本取組みとしての目的 (ゴール)

**UNISEC 衛星開発団体で技術・ノウハウを共有
開発・運用時の失敗・トラブル件数の減少**

○ 基本コンセプト

情報の Give and Take

*1) 情報共有 wiki へのアクセスにはパスワードが必要です。URL: <http://www.unisec.jp/app-def/S-100/satellite/>

2. 開催概要

本イベントの概要を、Table 1 に示す。

Table 1 開催概要

開催日時	2015 年 12 月 5 日(土) 11:00 - 15:00
開催場所	首都大学東京 日野キャンパス 2 号館 2-202 (大講義室 B)
参加人数	73 名 (学生[UNISON]: 71 名, 教員: 2 名) 21 団体
参加団体	大阪工業大学, 大阪府立大学, 九州大学, 九州工業大学, 神戸大学, 芝浦工業大学, 首都大学東京, 創価大学, 筑波大学, 帝京大学, 東海大学, 東京工業大学(小田・野田研, 動設計学研, 松永研), 東京理科大学, 鳥取大学, 都立産業技術高専, 日本大学, 北海道科学大学

3. 実施内容

3.1. 当日のスケジュール

当日のタイムテーブルを Table 2 に示す。実際の発表会も概ねこのタイムテーブルに沿う形で進行した。

Table 2 タイムテーブル

11:00 – 11:20	受付
11:20	イベント開始
11:20 – 11:40	衛星 WG 情報共有の取り組みについて
11:40 – 11:50	情報共有データベース(wiki)の紹介
11:50 – 11:55	諸注意 (アンケート説明, 等)
11:55 – 12:20	発表枠 1 (大阪府立大学)
12:20 – 13:50	休憩
13:50 – 14:15	発表枠 2 (九州工業大学)
14:15 – 14:40	発表枠 3 (東京工業大学)
14:40 – 14:50	アンケート記入 / 諸注意
14:50 – 15:00	写真撮影
15:00	イベント終了

3.2. イベント内容

本イベントは、首都大学東京にて実施された UNISEC Workshop 2015 において、4 時間(うち、休憩 1:30)を利用して実施した。

本イベントの流れは Table 2 に示した通り、はじめに本取り組みについて(過去の活動内容、今後の方針)を説明した後、本取り組みにて製作している情報共有データベース(wiki)について簡易的なデモを交えて紹介を行い、その後、本イベントのメインである「C&DH」系に関する発表を、計 3 団体の方々にして頂いた。発表して頂いた方の氏名、所属団体、発表テーマを下記に示す。

○ 発表団体

- | | | |
|-----------|------|------------------------------------------|
| 1) 大阪府立大学 | 梅本さん | 仕様書によるソフトウェア仕様設計について |
| 2) 九州工業大学 | 村上さん | 鳳龍式号 C&DH 系開発 及び運用報告
- 放射線が衛星に与える影響 - |
| 3) 東京工業大学 | 太田さん | 超小型衛星 TSUBAME の C&DH 系
軌道上運用結果と技術課題 |



Fig. 2 実施風景



Fig. 3 集合写真

4. アンケート結果

本イベントの終了後に、アンケートを実施し、参加者 73 名のうち 48 名の方々からご回答頂いた。以下にアンケートの集計結果を示す。

まず、学年別・地域別にまとめた参加者層の割合を Fig. 4 に示す。図からも分かる通り、学部生の参加者が多く、特に B1, B2 及び高専の学生だけで全体の 4 割程度を占めている。若い世代の学生が積極的に参加している状況はとても良いことだと言える。一方で、様々な知見、経験を持っていると思われる M1 以上の学生の参加者が少ない状況というのはあまり好ましい状況ではない。また、地域別でみると関東の学生だけで 6 割近くを占めており、かなり偏った状況であるといえる。登録団体の分布上ある程度仕方がないことではあるが、遠方の学生にも是非積極的に参加して頂き、それぞれの経験・ノウハウを共有できるような環境を目指していきたい。

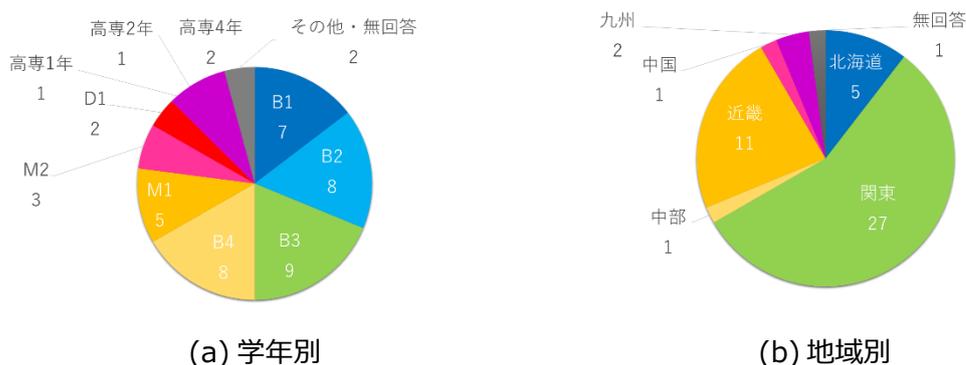


Fig. 4 参加者層の割合

次に、イベントに対する意見について述べる。発表時間については、概ねちょうどよいとの回答を頂いたが、一部からは短いとの意見も頂いた。発表内容については比較的満足度の高い結果となっている為、原因としては内容が密になり過ぎている、テーマが具体的でなく統一感がない、等といったことが挙げられる。これらについては、テーマをより具体的にする、発表前に実施する査読にて内容を絞り込む等の対応で解決できると思われるので、次回以降はこれらの対策を施したい。

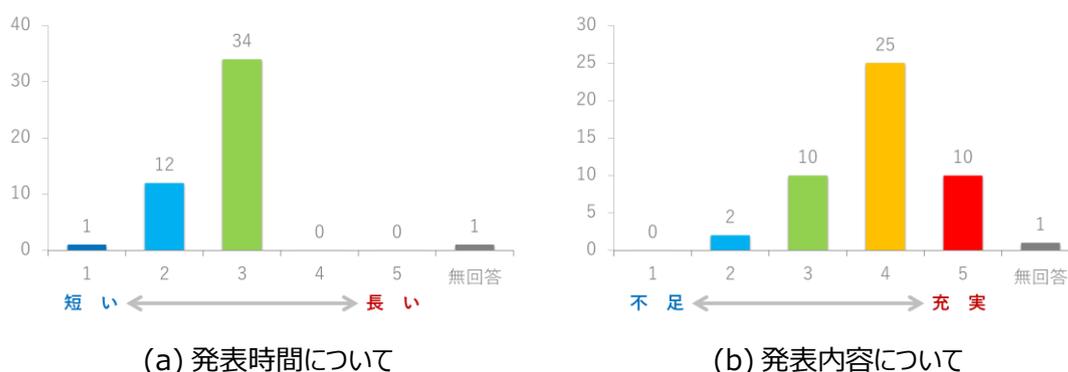


Fig. 5 イベントに対する意見

5. 総括

2015年12月5日に首都大学東京にて、「第10回情報共有発表会」を実施した。3団体より、設計や製作、及び実際に軌道上で起きた不具合等に焦点を当てた発表をして頂いた。

発表会自体は久しぶりの開催ということもあり準備不足な点多々あったが、打ち上げ経験団体ならではの情報を共有でき、非常に有意義なイベントになったと思われる。

本取組みは参加者の「情報を共有したい」という思いの元運営されているものである為、現在運営に携わっている人だけでなく、より多くの人に積極的に参加して頂き、より有意義な活動を目指したい。

○ 謝辞

本イベントの開催にあたり、会場確保などで多数の方にご協力頂きました。また、お忙しい中先生方にもご参加頂き、発表内容についてご意見・ご助言を頂きました。心より感謝致します。